

実施クラス	実施日
5 歳児 にじ 組	6 月 25 日 (水)

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ～天気～ 雨と雪はどこからくるの？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
<p>前回のすくわくの実験から雲に興味を持ち、戸外に散歩した際には空を見上げたり、雨が降ると「雲から落ちてきたんだね。」と興味をもって過ごし、自然現象への好奇心が芽生えている。雪の話も前回発生原理を話しているが、あまり実感がわかないのか興味は示していない様子。</p>	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
9:45～10:00	<p>・前回の雲と雨の実験振り返りをする。</p> <p>・くもり、雨、晴れ以外の天気は何か考え、発表する。</p> <p>・雪の意見が出たことを確認し、今回は、雪について活動することを伝える。</p> <p>・雨や雪がどこから降ってくるのか、何でできているのかをグループで話し合いながら考える。</p> <p>・「雨や雪はどこから降ってくるのかな？」「何でできているのかな？」「雪はどんな季節に降るのかな？」「雪はどんな形をしていた？知っているのかな？」等と問いかけ、発言を援助する。</p> <p>・意見はホワイトボードにまとめる。</p>
10:00～10:15	<p>・空気中から水を取り出す実験を行うことを伝える。【実験①】</p> <p>・実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。</p> <p>・「コップやお水や氷はどうなると思う？」「お水は氷を入れるとどうなるかな？」と問いかけ、発言を引き出す。</p> <p>・温度計について説明する。</p> <p>・コップの外に水滴がつく現象を観察し、空気中の水分が冷やされて水滴になることを知る。</p> <p>・空気中の水分が冷やされて水滴になる様子を観察し、空気中にも水があることに気づくことができるようにする。</p> <p>・コップに氷を入れるたびに水温を確認しながらどう変化しているか確認する。</p> <p>・「この水はどこから来たのかな？」「コップの中の水が外に出たの？」など自ら考えるきっかけとなる問いかけを</p>
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 室内で写真や図を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・ 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲・雨・雪の発生原理の図 ・ 雪の結晶の画像 ・ ホワイトボード ・ ホワイトボードマーカー ・ 写真や図を掲示するためのマグネット等 <p>【実験①】・・・空気中の水を確認する実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチックのコップ ・ 割り箸 ・ 氷 ・ 常温の水 ・ 常温の色水 ・ 塩(変化がなければ) <p>【実験②】・・・雪の結晶を作る実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フェルト(厚さ1.5mm程度) ・ はり金(太さ0.8mm程度) ・ プラスチックのコップ(小さい物) ・ アクリル樹脂用接着剤 (成分が二塩化メチレンのもの) ・ はさみ <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲・雨・雪の発生原理の図 ・ 雪の結晶の画像 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気中の水を確認する実験、フェルトと接着剤の実験を予め検証しておく。 <p>【実験①】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プラスチックのコップに半分より少し多めに水を入れる。 ②①のコップに氷を入れ、割り箸で混ぜる。 ③金属のコップの周りの変化を観察する。※水の実験を行った後、コップの中

	<p>行つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は色水で同じ実験を行う。 ・「コップはどうなるかな?」「コップの中の色水は氷を入れるとどうなるかな?」「氷は水に入れるとどうなるかな?」と問いかけ、観察の視点を広げる。 ・2つの実験を比較してどうだったかを発表する。 ・「コップはどうなったかな?」「コップの中のお水には色がついているけど、コップについているお水は何色?」「コップについているお水はどこからきたと思う?」「コップについているお水は、コップの中の水ではなく、空気中にある水分であることを確認する。 	<p>を色水にして実験を行い、比較する。</p> <p>【実験②】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フェルトをはさみで5cm程度の高さの木の形に切る。※はさみがうまく使えない園児がいる場合は予め切っておく。 ②はり金を9cm程度の長さに切り、折り曲げて立てられる形状にする。 ③フェルトの中心にはり金を差し込んで、フェルトが立つようにする。 ④プラスチックコップを1/3くらいの高さに輪切りにし、フェルトを中に立てる。※プラスチックコップを切っておく ⑤アクリル樹脂用接着剤の液をプラスチックコップの中に注ぎ、フェルトの下の部分をひたす。 <p>※換気に注意する。</p>
10:15~10:25	<p>・次は雪の結晶を作る実験を行うことを伝える。【実験②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。 ・フェルトの木を作る。フェルトを切る際や針金を通す際には危険を伴うため十分に気をつけることも伝え、一緒に作成する。 ・接着剤を使用する際のルールを確認し、安全に扱えるようにする。 ・「フェルトの木はどうなったかな?」「何がついたんだろう。」「ついているのは何に似てるのかな?」等と問いかけ、フェルトの木の変化を観察していく。 	
10:25~10:30	<p>・雨や雪はどこからくるのか、再度考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雨や雪はどこからくるのかな?」「雨や雪は何でできている?」と問いかけ、発言を援助する。 ・雲・雨・雪の発生原理の図と雪の結晶の画像をホワイトボードに貼り、みんなで確認していく。 ・「雨と雪は水でできているんだね。」「雪は寒い冬だと見られるのかもしれないね。」「雪の結晶は、顕微鏡で見るとこんな形に見えるよ。どう思う?」「あったかそう?冷たそう?」等と問いかけをお粉、子どもたちの気付きを援助し、雪は冬に降ることが多いことを確認する。 ・「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな?」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会を作る。 ・次回も、天気についての実験を試みることを伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちに「雨はどこから来るの?」という疑問を投げかけ、実験を通じてその仕組みを知ることができるように進めた。</p> <p>・最初に自由に意見を出し合い、様々な考えを共有した後、冷水を入れたコップの外側に水滴がつく現象を観察した。</p> <p>・子どもたちは、「コップの中の氷から水が出たの?」と疑問を持ち、実験を進めるにつれて空気中の水分が冷やされて水滴になることに気づいた。</p> <p>・実験を通じて、空気中に目に見えない水が存在していることを発見し、子どもたちの探究心が深まった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「雨は(雲の中で)溶けると落ちてくるんだよね。」と前回行った内容を思い出しながら発言していた。</p> <p>・実験中、「わぁ!(コップの)周りが白くなってきた!」といった驚きの声があがり、触ると指に水滴がついたことで実際の現象を見て理解が深まった様子が見られた。</p> <p>・フェルトの実験では雪のようなものが発生すると気が付いて盛り上がり、別のグループの子へ声をかけて共有しようとする姿が見られていた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもたちが発言した内容を受け止め、考察を促す質問を投げかけた。</p> <p>・実験前に結果を予測してもらい、実験中は変化を観察する手助けをした。</p> <p>・子どもたちが自らの考えを表現できるようにし、肯定的に意見をホワイトボードに書いて共有できるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・前回の天気のおくわくから実験の過程を通じて子どもたちが興味をもち、自分の考えを発言しようとする姿がよく見られた。結果として、空気中の水分や冷却の影響について理解を深めることができた。</p> <p>・雪については時期が違ってしたが、過去に雪を見たり触ったことがある体験から話を深めることが出来た。</p> <p>・日常活動ではあまり取り扱うことが無い素材を使い、今後のプログラムでも初めての素材を扱うことが多くなるので事前に注意点をある程度決めておく。</p> <p>・子どもたちの考えを出す際にはなるべく考えを出し切るまで待っているが、「正解を求めるのではなく、考えることが大切」というメッセージが子どもたちに伝わるような声かけを意識的に行えるようにする。</p>	<p>今回のテーマは「雪」。子どもたちの好きな天気なので、わくわくしたに違いない。雨と同様の原理で考え、理解も深まっていた。今回の実験は普段目にする事のない材料が並び興味が高まった。目でみて、手で触って確認したい気持ちがかんどん強くなっている。子どもたちが自分の意見や気持ちを言い合えることだけでなく、友達や先生のお話をきけるように環境設定やお約束など工夫していつてもらいたい。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	10 月 14 日 (火)	黒川

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～野菜～ 野菜カードをつくろう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
これまでの活動を通して、自分たちで調べたことを模造紙に貼った野菜を見て「そうだ、玉ねぎは葉っぱだった。」と眺めたり、クイズを出して楽しんでいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にす。
10:10～10:30	・オリジナルの野菜カードを作ろうと提案する。 ・どんなものをカードに載せたいか、何を調べたいかを考える。 ・必要な用具を用意する。	
10:30～10:40	・完成した作品を見て、好きなところなどを伝え合う。	
		【準備物】 野菜の絵本 野菜の図鑑 iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) 子どもたちから必要と意見が上がったものを準備する。(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ホワイトボード ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・これまでの活動の記録をホワイトボードなどに貼り出し、振り返りやすい環境を整える。 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで整理してから、次の探究への関心を高められるようにした。</p> <p>・どの野菜、何をカードに載せたいかを考える。</p> <p>・必要な用具を用意し、製作を進める。</p> <p>・完成したカードを友達と見せ合いながら、「何を書いたのか」「どんな特徴があるのか」などを発表・共有した。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・これまでの活動で学んだ野菜の特徴を思い出しながら、「なんだっけ、紙(前回の活動でまとめた模造紙)みてきていい？」とカードに書く内容を自分で考えて表現していた。</p> <p>・友だちとカードを見せ合いながら、気付いたことや表現の工夫を共有していた。また、「もっと作りたい」と意欲的に新しいカードを製作していた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「どんなふうに育っていたっけ?」「何を見に行くんだっけ?」などの問いかけを通して、観察や学びを再構築しながら表現できるように支援した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・これまでの活動の積み重ねにより、子どもたちの中に野菜への理解や印象が根づいており、それを自分なりに思い出して書こうとする姿が多く見られた。</p> <p>・カードの絵を描いたり文章を書くのが苦手な子もいるため、書く項目をみんなで決めて進められるようにした。野菜カードを印刷してのりで貼ることで、どの野菜を取り組むか事前に並べて選べるようになりやすくなった。</p> <p>・以前に調べてまとめた模造紙を活用しながら、自ら確認しようとする姿も見られ、子どもたちが主体的に知識を深めようとする探究心が育っていることを再確認した。</p>	<p>自ら感じたこれまでの学びを個々で表現する姿が見られ、探求心や表現意欲の高まりを感じられた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	11 月 7 日 (金)	黒川

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。また、夏の水遊びで色水を混ぜて楽しんだり、プレップで友達と絵の具を混ぜて何色になるのか楽しむなど、活動の中で色の違いや混ぜ方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろカルタ」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなかを考える。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙 →16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット)
10:15～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・学んだ色の働きや面白さについて発表し合う。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・「今日学んだ色のことを、これからどんな場面で思い出せるかな?」と問いかけ、生活と結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>いろいろたで保育者が行った色のブロックを取り、色に興味を持ったところで色の違いや成り立ちについて関心を持てるように活動を進めた。「オレンジは中央線だから好き」「ピンクはかわいい。」と好きな色の理由を考えたり色の印象を話し合い、色の持つ効果を実感していた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤と青を混ぜたらムラサキになるんだよね?」「赤って、虫から出来てるんだ!」「青の(原料)が一番きれいだから、これがいい。」などそれぞれの気づきや感じたことを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色を見てどんな気持ちになる?」「どんな場面でこの色が使われているかな?」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また、用意された資料とは別にiPadで染料を調べてどのような草花からどんな色が生まれるのかを共有したり、歴史における色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心もち、「もっといろいろな色(の原料)が知りたい!」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、「そういえばカラーモンスターだと赤は怒ってたよね。」「黄緑は穏やかな気持ち」と知っている絵本の内容と合わせて話し合いながら理解を深める様子が見られていた。 	<p>色の原料を知り「何色になるだろう」と考えていたことは子どもたちの想像力を大きく刺激していたと感じました。</p> <p>子どもたちの「もっと知りたい」という気持ちを大切にしながら、原料や身の回りの色へと視点を上げていけるとより探求が深まっていきそうです。</p>